

令和 8 年度 学校経営計画

1 学校教育目標

「強い意志と豊かな情操を身に付けた人間を育てる」

- ・主体的に環境に関わり、その意志を実現しようとする児童生徒
 - ・もてる力を十分に生かして、必要な支援の下に自立的な生活を営もうとする児童生徒
 - ・趣味や生きがいのある、心豊かな生活を実践する児童生徒
- ＜校訓＞ 明るく、仲よく、たくましく

2 学校の特徴

- ・本校は肢体不自由のある児童生徒に対する教育を行うための特別支援学校である。小学部・中学部・高等部の3学部を設置しており、医療施設（富山県リハビリテーション病院・こども支援センター）に隣接している。また、高等部こまどり分教室が高岡市立こまどり支援学校に併置されている。
- ・在籍している児童生徒は、隣接医療施設又は高岡市きずな子ども発達支援センターで肢体不自由の治療や訓練を受けており、在籍児童生徒の21%が医療施設に入所している。
- ・児童生徒の通学の形態は、隣接医療施設からの通学与保護者送迎による自宅からの通学である。
- ・肢体不自由の単一障害から常時医療的ケアが必要な者など、在籍児童生徒の障害は多様化しており、一人一人の教育的ニーズに対応するため、4種類の教育課程を編成している。
- ・近隣の小学校・中学校・高等学校との交流及び共同学習や居住地校交流を計画的・継続的に行っている。

3 学校の現状と課題

(1) 現 状

- ・障害の程度、発達段階が大きく異なる児童生徒が在籍している。また、隣接医療施設に入所して治療や訓練を受け、数か月から数年後に前籍校へ戻る児童生徒の転出入が年間少なからずある。
- ・在籍児童生徒の9割近くが、肢体不自由の程度が重度であり、肢体不自由と知的障害等が重複している。医療的ケアを必要とする児童生徒が、全体の6割を占めており、人工呼吸器などの高度管理医療機器の使用も増えてきている。
- ・児童生徒一人一人の実態やニーズに応じた指導の充実を図るため、学校・家庭・隣接医療施設・関係機関と協力して個別的教育支援計画の作成や情報の共有、キャリア教育等に取り組んでいる。
- ・児童生徒の健康の保持や学力の保障、進路指導等の充実を図るため、教員の肢体不自由教育に関する専門性の向上のための研修を計画的に実施している。
- ・中新川・滑川地域の幼・保・認定こども園・小・中・高等学校の特別支援教育の推進及び県内の肢体不自由児の指導に関して積極的に支援している。

(2) 課 題

- ・個に応じた教育課程編成による学力の保障
- ・障害の状態や発達の程度に配慮した健康の保持並びに安全に配慮した支援体制の充実
- ・卒業後を見通した進路指導の充実
- ・隣接医療機関と連携した教育の推進
- ・肢体不自由教育に関する専門性の向上
- ・特別支援教育のセンター的機能の充実

4 学校教育計画

項 目		目標・方針及び計画	
1	学習活動	目標	・基礎学力や基礎的な生活習慣の定着を図るとともに、社会や身の回りの事象への関心を高め、集団生活、進学先や社会生活に適応する態度や技能を育てる。
		計画 教務	・個々の児童生徒の教育的ニーズや障害の状況に沿った個別の指導計画を作成するとともに、一人一人の実態に応じた教材・教具を工夫し、実践する。
2	学校生活	目標	・児童生徒の健康で安全な学校生活を目指した健康教育の充実を図る。
		計画 保健	・児童生徒が健康で安全な生活に興味関心をもち、実践する力を育てるために、保健集会を行ったり、関連する教材・教具、掲示物、図書などの情報提供と貸出しを行い、各学級での指導に活用したりできるようにする。
		目標	・児童生徒一人一人の障害、機能、体調の状況に応じた適切な摂食指導を行う。
		計画 給食	・教員の専門的知識・技能習得のための研修を行うとともに、児童生徒の実態に合った食形態を提供するために変更手続きを明確化する。
		目標	・児童生徒を対象に、災害や災害時の対応等についての学習を行い、防災についての理解を促す。 ・教員、保護者の防災に関する研修、災害時訓練への参加機会を設け、知識・対応力の向上を図る。（防災に関する研修会、児童引き渡し訓練）
		【重点1】	計画 【生指】
3	進路支援	目標	・児童生徒のキャリア教育、進路指導を充実させ、児童生徒及び保護者の幅広いニーズに応えるため、様々な情報提供を行う。 ・個々が必要としている情報を児童生徒や保護者と共有するために、教員の進路に関する知識を高める。 ・児童生徒が自己理解を深め、適切な進路選択につなげるようキャリア教育を推進する。
		計画 進路	・進路相談や進路希望調査等を通して、児童生徒及び保護者、教員が必要としている情報を知り、学習会の内容設定の参考にする。 ・児童生徒を取り巻く福祉や社会の現状、キャリア教育の取組等を知るための学習会を開催し、保護者、教員に参加を呼び掛ける。また、学習会の内容を進路だよりに掲載し、理解・啓発に努める。 ・進路指導部が主体となってキャリア・パスポートの作成を計画的に進める。
4	特別活動	目標	・ボッチャ競技の普及を推進し、児童生徒の運動に親しむ態度を育成する。

5		計画 生指	・本校の卒業生であるパラリンピックメダリストを講師として招きボッチャ教室を実施したり、校内ボッチャ大会等を開催したりする。
		目標	・児童生徒の読書環境を整備し、多くの図書に親しめるようにする。
		計画 情・図	・「読書週間」「お話を聞く会」などの行事を開催したり、図書室前の掲示を活用したりして、図書に関する啓発を行うとともに児童生徒の読書活動の推進を図る。
		目標	・交流及び共同学習における交流活動の充実を図る。
		計画 各学部	・近隣の小・中・高等学校との交流及び共同学習において、相手校との連携に基づき、活動内容を検討し有意義な交流となるよう計画する。
	【重点2】 その他	目標	・教員のICT活用能力の向上を図る。
		計画 情・図	・教員の要望に応じたICT機器の活用に関する研修機会を設定したり、ICT機器の展示や教材の閲覧ができるようにしたりする。
		目標	・PTA活動が活性化し保護者が「PTA活動をやってよかった。」と実感できるように①保護者と児童生徒が一緒に参加する活動。②保護者が時間に縛られずに取り組める活動。③取り組んだことが形に残る活動。を保護者と教員がともに推進する。
		計画 総務	① 「校内ピカピカ週間」「チューリップ大作戦」などの実施。 ② 保護者が都合のよい時間に取り組める「ベルマーク運動」の実施。 ③ PTA広報誌「コシコシタイムズ」の充実。
		目標	・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた教員の授業力向上に関する校内研修の充実を図る。
		計画 研修	・肢体不自由教育に関する専門性を高めるために外部の専門家を招へいし、研修等を実施する。教員の研修ニーズを把握し、指導内容、指導方法を学び合う機会をオーダー研修として設定する。
		目標	・ <u>児童生徒一人一人の教育的ニーズや合理的配慮を適切に把握して個別の教育支援計画の作成に生かし、具体的な支援につなげてスムーズな移行支援を行う。</u> ・ <u>本校の関係機関の業務内容や役割について、教員の理解を深め、児童生徒の支援に生かすことができるようにする。</u>
		計画 【支援】	・新入生の在籍園や他校から入学する児童生徒に関する情報を様々な観点で収集するための記録用紙を作成する。 ・本校の関係機関の業務内容や役割について、本校と連携して対応した事例を取り上げながら教員向けに情報発信する。

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和8年度高志支援学校アクションプラン — 1 —		
重点項目	学校生活 ー生徒指導部ー	
重点課題	災害や安全に対する意識を高める防災教育の充実	
現 状	・本校は、海岸から約2kmに立地し、地震の際の津波や常願寺川の氾濫への警戒が必要である。校舎は平屋建てのため、実際に災害が起こった際には隣接の病院施設に避難することも考えられる。これらのことを踏まえ、日頃からの防災意識を高めたり、どのような対応をするのかを考えたりしておく必要がある。 ・肢体不自由の特別支援学校であるため、避難時の移動は教員の支援が主になるケースが多いと考えられる。しかし、児童生徒が災害について知り、災害時の知識や判断、対応などを身に付けるための学習機会も必要であるとする。 ・年間2回（火災、震災・水害と火災）の避難訓練や、教職員対象の防犯訓練及び水害訓練を行っている。さらに、夏季休業中の登校日に災害時児童生徒引き渡し訓練を行っているが、保護者に参加してもらう体制が不十分である。	
達成目標	児童生徒を対象に避難訓練（火災、震災及び水害・火災）の機会に、災害や災害時の対応等について事前学習や事後学習を行う。	各学部 2回以上
	保護者の災害時訓練（児童引き渡し訓練）への参加の促進	100%
方 策	・児童生徒が防災について学べるよう、火災避難訓練、震災（火災、水害）避難訓練を実施するとともに、事前事後に各学部（グループ）や学級で防災について学ぶ機会を設ける。 ・保護者に児童生徒引き渡し訓練の必要性を伝え、保護者の積極的な参加を促す。	

令和8年度高志支援学校アクションプラン — 2 —		
重点項目	その他 ー支援部ー	
重点課題	切れ目ない支援を実現する移行支援の充実と専門性向上のための校内支援の充実	
現 状	・本校では、児童生徒の様々な実態に合わせて個別の教育支援計画を立て、家庭や関係機関と連携を図りながら指導・支援を行っている。小学部の新入生や中学部高等部の他校からの新入生については、在籍していた幼稚園・保育園・こども園・小学校・中学校等から教育（療育）支援計画等を引き継いだり、移行支援のための見学等を実施したりしている。しかし、必要な情報を収集するための観点が曖昧であったり、偏っていたりするために、具体的な指導や支援にスムーズにつなげて活用するにはまだ課題がある。 ・本校は、地域の医療機関及び福祉事業所、障害児通園施設等と連携し、児童生徒の指導や支援を行っている。個別の教育支援計画を立てる際に、連携先を明記し、それを基に保護者との懇談を行ったり、関係機関と連携したりしているが、本校の教員が各連携機関の業務や役割について明確に把握しきれていない現状がある。	
達成目標	スムーズな移行支援に向けた情報収集のために記録用紙の様式を検討し作成する。	12月末までの様式の完成
	本校教員に向けて連携機関等の業務や役割についての情報を発信する。	学期に1回以上
方 策	・担任や学年担当が、小学部に入学する児童や他校から本校に入学する中学部・高等部の生徒について必要な情報を得て、教育的ニーズや合理的配慮を把握し、今後の指導及び支援を検討する際に生かせるように、また移行支援のための見学や懇談等で引き継ぐとよい内容について多面的な様々な観点で把握することができるよう、在籍園等での見学や聞き取りの際に活用する記録用紙の項目を整理する。 ・新年度の個別の教育支援計画を作成、活用する際にどのような情報が有効だったか、また、もっと得たい情報はあったかなど、新入生の担任にアンケートを取り、新様式の作成に生かせるようにする。 ・本校と連携している医療機関及び福祉事業所、障害児通園施設等の業務内容や役割についてトピックとして取り上げ、本校の教員向けに情報発信を行う。 関係機関と連携して対応した事例を取り上げ、それぞれの具体的な役割を教職員が学び今後の支援に生かせるようにする。	